

佐渡市総合計画策定に向けて

佐渡市子育て世代ワークショップ　『子育てしやすい佐渡市にするには？』　【結果報告】

資料1

■作成
佐渡市　企画部総合政策課
TEL：0259-63-3802

■開催概要

目　的	佐渡市の新たなまちづくりの指針となる「佐渡市総合計画」を策定するにあたり、子育てしやすい佐渡市にしていくため、子育て世代の皆様から、普段の生活で感じている子育てへの思いやアイデアなどを寄せ合うこと。	内　容	説明　・佐渡市の人口の推移・子育て支援策 ・子育て世代アンケート結果 意見交換 ①子育て支援策の評価 ②もう１子の出生に向けたハードル ③解決策を提案しよう
日　時	令和８年８月29日(土) 10：00 ～ 11：30		
会　場	さわた図書館・子育て交流ひろば　３階　多目的ホール		
参加者	７名（１班）		





意見交換の様子

■意見交換の結果概要

①子育て支援策の評価

※（　）は同様の意見の数



佐渡市の子育てに関する取り組みについて「良いと思うこと」「不満に思うこと」を出し合いました。

施　策		良いところ	不満なところ
妊娠・出産	出産育児一時金	・妊娠・出産の金銭的サポートが充実（６）	—
	多子世帯出産成長祝金	・出産祝金はとても助かった。	・子どもが小さいうちは働く事ができないので、初めに一括支給してくれると助かる。 ・認知度が低いのでもっと PR が必要
	その他	—	・申請手続き等が多くて、いつまでに何を出せば良いかわかりにくい。 ・オムツ等の現物支給があると良い ・妊婦さんに負担の少ない、出産体制だと良い（陣痛から出産、産後までを同じ部屋で行う等）
医療・健康	１か月健診、乳幼児健診	—	・各回の健診について、これまでの相談内容を把握している方（できれば同じ方に）に対応してもらいたい。
	病後児保育	—	・病後児保育が使用しにくい。（利用条件等） ・金井保育園だけではなく、各保育園で展開してほしい。
	その他	—	・小児科が平日しかやってない。 ・いずれ産科病棟が閉鎖するのではと不安 ・産後ケア事業について、家事代行業の利用も可能にしてほしい。 ・産後ケア事業の対象期間を２年に延長してほしい。（卒乳の時期が１歳を過ぎる方が多いので）
子育て支援	子育て支援センター	・センター職員に相談しやいすい。 ・イベントが多くて良かった ・平日利用できる支援センターがたくさんあって良い	—
	トキの島ファミリー・サポートセンター	—	・ファミサポの利用に不安があるので、口コミなどがあると良い ・この制度を知らなかった。認知度が上がれば利用者が増えると思う。 ・ファミサポ制度の提供会員への料金を増額してほしい。有資格者の提供会員もいる中で安すぎる。増額すればさらに提供会員の増加にもつながる。 ・少数派だが、自宅保育をしたい人もいるのでファミサポ制度の拡充をしてほしい。
	さわた図書館・子育て交流ひろば	・きれいで使用しやすい	—
	佐和田児童クラブ（遊戯室開放）	・土日の遊び場として開放がありがたい。	—
	畑野こどもの居場所	—	・この場所を知らなかった。認知度が上がれば利用者が増えると思う。
	その他	—	・切れ目のない支援というが、あまりそれを感じられない。 ・屋内の遊べる場がない。（３） ・公園の遊具を更新してほしい。 ・真野公園のトイレが汚い。
保育教育	保育園	・島外と比べて保育園に入りやすい（２）	—
	その他	—	・小学校の行事の縮小化により、そこでしか体験・経験できない事ができなくなってしまう
その他		—	・運転等が苦手な方にとって、バス等の公共交通手段が少なく移動が大変

②もう１子の出産に向けたハードル、③その解決策



理想とする子どもの人数をかなえるための「課題」と「解決策」を子育ての３つの時期ごとに出し合いました。

主な課題	主な解決策	該当する時期		
		妊娠･出産期	乳幼児期	児童期～
１）子育てに係る経済的負担への不安	・多子世帯への祝金について、第２子から給付するよう拡充すれば第２子目へつながる。 ・子どもが増えることに必要となる車の買い替えや教育費等の費用へを支援する。	●	●	●
２）島外から育児の支援に家族が来訪する場合の交通費用負担	・島外から支援者（家族）が来る場合に交通費の補助制度・拡充を行い、移動に伴う負担を軽減する。	●	●	●
３）急な予定変更（子ども体調不良など）や職場へ迷惑をかけてしまう不安	・子どもの体調不良時に対応できる病後児保育体制の強化（今は使いにくい） ・週１回は在宅勤務が可能など、職場での支援体制の整備	●	●	●
４）育児への協力者が少なく、情報の共有や相談できる機会の不足	・子育てに関する情報発信や共有、相談が気軽にできるようなデジタルアプリや WEB 上の掲示板のようなプラットフォームの整備 ・今回のワークショップように情報共有や意見交換ができる機会を継続的に設ける。	●	●	●
５）家事の負担への不安（子どもとの時間の確保）	・ベビーシッターや家事代行、ファミサポ等の外部サポート制度をより利用しやすい形で充実・周知し、育児の選択肢を増やす。 ・健康的なおかずの支給など家事への支援	●	●	
５）育児休暇等の取りづらさ（特に男性や現場系の職場）	・従業員等の育休中に代替要員を確保できるような支援制度の整備 ・現在は、夫婦で育休を取得した場合の給付金が 10 割相当給付されるようになったので、そういった制度を活用（周知）して育休を推進する	●	●	
６）キャリアアップ継続への不安	・産休、育休後のキャリア継続を保障する仕組みづくり	●	●	
７）保育園等の入園の地域格差がある（中央部の入りづらさなど）	・保育士の不足が原因の一つと思うので、保育士の給与・手当等への支援を行う事により人材を確保する。島外から保育士として戻ってきたいという人の増加にもつながる。		●	
８）専門人材（保育士・保健師・助産師等）の不足	・給与、手当の待遇改善により佐渡で働きたい人材を呼び込むとともに、必要となる技術等を補うための研修の実施	●	●	
９）発達の問題など様々事情を抱える子ども達への対応	・様々な事情の子ども達をケアするには保育士等が不足していると感じるので、人材の確保を行う。	●	●	
10）パパの育児・家事スキル向上への機会不足	・職場の理解（職専免など）を得ながら参加できるパパ育成講座を開催する。 ・病院で行う産後指導をパパ向けに行う。実際の赤ちゃんを踏まえて助産師・看護士による直接指導	●	●	